

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	呉工業高等専門学校
	大学等名1(代表大学等)※カナ	クレコウギョウコウトウセンモンガッコウ
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ、プロジェクトデザイン工学総合ゼミ I
	学部・研究科等名	専攻科(プロジェクトデザイン工学専攻)
	担当教職員名・役職	専攻科長:岩本 英久(機械工学分野 教授)、専攻科長補:吉川 祐樹(機械工学分野 准教授)、山崎 勉(電気情報工学分野 准教授)、河村 進一(環境都市工学分野 准教授)、下倉 玲子(建築学分野 准教授)、インターンシップ担当:大田 一夫(特命教授)
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	23
	受入企業等数	13
	受入企業等名	マツダ(株) (株)豊國 (株)ディスコ デュポン(株) (株)川島製作所 (株)アールテック・リジョウ 広島県庁 呉市役所 (国研)国立環境研究所(株)地域計画工房 (株)荒谷建設コンサルタント 大之木建設(株) (株)西建設計
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ,4.他県をまたぐ広域インターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	これまで学修してきた専門分野に対応する校外実習機関(企業・役所・研究機関等)において、専門分野に関連する就業体験を行い、基礎学力や専門知識の重要性を知るとともに、技術に対する社会の要請を認識し、エンジニアとしての高い志と社会人基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)を高める。
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,4.当該インターンシップは、必修科目として実施している,7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している	
2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	専攻科1年次	
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	10単位	
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本科5年間で専門分野を一通り学修している専攻科1年生全員を対象に、5月の連休明けから7月下旬まで(54日間)の期間内に、履修実時間360時間以上の就業体験をした学生に対して専門科目必修10単位を付与する。	
要素②	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	専門基礎科目のプロジェクトデザイン工学総合ゼミ I(必須2単位)の前期分として、インターンシップに行く前の4月に2名の外部講師による集中講義方式で、ビジネスマナー研修(挨拶、身だしなみ、名刺交換、報告・連絡・相談、電話対応)と、ロジカルシンキング研修(演繹法・帰納法、SWOT分析、コミュニケーションスキル、解決すべき課題の発見方法等)を実施した。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	専門基礎科目のプロジェクトデザイン工学総合ゼミ II(必須2単位)の授業の中で、「より良い長期インターンシップとするためには？」をテーマにグループ討議を行うことで、インターンシップの振り返りを行った。

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ期間中、学生に日報(履修内容及び成果、感想及び反省等)を書かせ、電子化したものを1週間毎に学内e-ラーニングサイトに掲示させ、教員は校内でこれを見ることで、学生の実習状況を確認し、問題がある場合は電話やメールで適宜アドバイスした。また、これに加えて、中間に1回、教員が実習先に向いて(遠方の場合はSkypeで)、受入先の指導担当者にも立ち会って頂き、学生に対する巡回指導を行った。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	学生に対する事後アンケート調査で、企業における時間・コスト・コミュニケーション・マネジメント感覚等についての習得度を把握すると共に、受入先の指導担当者に技術の吸収力及び応用力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、協調性、実習目標の達成度について評価して頂いた。また、インターンシップに参加した学生全員と、受入先の指導担当者にも参加を頂き、インターンシップ報告会を開催し、共有化を図った。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間54日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)		
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実施期間は、平成28年5月9日(月)～7月22日(金)の54日間とし、実習時間360時間以上を満足する範囲で、若干の変更を可とした。実習は、概ね第1週は新人教育とガイダンス、第2～3週は実習部署でのOJT研修、第3～4週はテクニカルトレーニングと実習に向けての計画策定、課題設定、第5～11週が課題解決の実践、第12週はまとめとし、期間を長く確保することで、受入先にも有益となるように配慮した。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとつての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習が始まる前の4月は、受入先より概略の実習テーマ・プログラムを提示して頂き、学生の希望も踏まえて担当教員が内容確認し、必要に応じて修正をお願いし、できる限り教育効果の高いインターンシップとなるように配慮した。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=34&department_id=23&subject_id=0037&year=2011 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=34&department_id=23&subject_id=0007&year=2011
問い合わせ先	大学等名	呉工業高等専門学校
	担当部署名	学生課教務係
	担当者役職名	係員
	担当者氏名	
	電話番号	0823-73-8206
メールアドレス	kyoumu@kure-nct.ac.jp	